

この体験を 労働運動に活かす

レイバーノーツ大会報告会

静岡県評は、7月20日にレイバーノーツ大会報告会を静岡あざれあで開催しました。25名が参加しました。

報告者はレイバーノーツ大会に参加された松本和也さん（静岡市労連）、青池則男さん（自治労連）、大久保なつみさん（全労連）の3名です。



大会の報告をする大会参加の3人

2024年レイバーノーツ大会は4月19日から21日までの間、米国シカゴ郊外のホテルで開催されました。レイバーノーツは「労働運動に運動を取り戻す」をスローガンに1979年から活動を続けている出版労働者教育、活動家育成などを行なっている組織です。2年に1度大会を開催しています。大会は全米各地をはじめ世界各国から労働組合、労働運動の活動家4700人ほどが集結しました。国民春闘共闘・全労連から39名が参加しました。

報告会では松本さんは「世界各国の活動家と対話できた。日本は個人主義的だが世界中が連帯する事は大事だ。ストライキは要求実現も大事だが団結や連帯が深まるのが良い」と青池さんは「各国の参加者は自発的に参加者からは報告者に対してたくさん質問や感想などありました。静岡県評からは次世代活動家育成の期待を込めて松本和也さんを派遣することができました。レイバーノーツ大会参加者への皆様からのカンパのご協力ありがとうございます」。



途中では少人数で討論も

参加者からは報告者に対してたくさん質問や感想などありました。静岡県評からは次世代活動家育成の期待を込めて松本和也さんを派遣することができました。レイバーノーツ大会参加者への皆様からのカンパのご協力ありがとうございます。

前回の裁判で能登半島地震の避難について原告から被告に対して書面を提出しました。大きな自然災害が

起きた場合は道路の寸断や建物の崩壊で計画通りに避難することはできません。このことは能登半島地震が証明しています。浜岡も例外ではありません。このことに対して中電からの回答はありませんでした。原子力委員会は避難計画の基となる指針の大幅な変更を必要とあります。

原告は、大地震による御前崎の地盤隆起の可能性について新しい証拠書面を裁判所に提出しました。断層の真上に建つ浜岡原発は地震で4メートルの地盤隆起も想定されます。その場合、原発に冷却水が入らず大惨事になります。

浜岡原発は活断層、津波の防潮堤の不備、地盤隆起、避難計画見直しなど問題だらけの危険な原発です。原告と支援者は裁判に勝利し浜岡原発廃炉まで闘います。今回は11月18日11時から静岡地裁浜松支部です。

地盤隆起で浜岡原発は危険！

浜岡原発永久停止訴訟第39回口頭弁論

7月18日に静岡地裁浜松支部で開かれ原告と傍聴25名が参加しました。原子力規制委員会は浜岡原発の審査会合で「南海トラフ巨大地震と大陸棚斜面の海底地点の地滑りを組み合わせた場合の津波高が最大25・2メートルになる」とする中電の想定を概ね妥当」と評価しました。中電は規制委員会のおすみつきで次のステップを進めることになりました。

呼びかけるサマセミプレ企画が7月20日に静岡市内で開催されました。サマセミ参加予定の青年やレイバーノーツ報告会に出席した人など20名が参加しました。

プレ企画は、昨年開催されたサマセミを成功に導きました。県評サマセミ実行委員長の山中慎也さんは「サマセミに多くの仲間を送り込みブロックの仲間と交流を深め県評青年部の団結を強化させよう」と挨拶しました。

レイバーノーツに参加した松本さん青池さん大久保さんも参加し3人が語る世界の若者の意識などリアルな体験談で大いに盛り上がりました。

ひとり親でも安心して暮らせる社会

7月18日、定例研究会が開催されました。「コロナ、物価高、共同親権：社会はいつまでシングルマザーを苦しめ続けるのか」

静岡県では10組に1組はひとり親世帯です。シングルマザーになった理由は、離婚が79・5%、未婚が10・8%、死別が5・3%です。女性は身体的な暴力、精神的な暴力、経済的な暴力、浪費、

生活費を渡さない等の様々な「暴力」が離婚理由では圧倒的に多いです。日本のシングルマザーの貧困化は性差による賃金格差、根強い性別役割分業、社会保障制度の不備などにより、婚姻中から女性の貧困は始まっています。

コロナ禍において、そもそも余裕のない生活をしているひとり親家庭をコロナが襲い、物価高が襲いました。田中さんの団体は「緊急食料配布会」を2020年7月から2

024年3月まで延べ37回実施しました。2024年5月、シングルマザーを震撼させる共同親権法が成立しました。親権とは、18歳未満の子の重要事項の決定などを行う親の権利義務のことです。施行後、共同親権になったら、子に関する重要事項を父母で決定します。合意できない場合は都度、家庭裁判所に持ち込み、家裁が決定します。そのたび仕事を休み長引けば長引くほど経済状態が悪化します。

青年部が交流会 東北陸北ブロック青年交流会「第31回サマセミナー」成功に向けて団結を

交流会の2次会に臨む参加者

今年「運転手不足」を理由にバスの運行がなくなり、参加できなかった人もいました。参加者からは「運転手の賃金大幅引き上げなど待遇改善をすれば運転手はもっと増やせるはずだ」との意見がありました。



裁判後の報告集会の様子



交流会の2次会に臨む参加者



安倍川花火大会で交流会開催

静岡地区労連は、7月20日に「夏の交流会」を、安倍川花火を見ながら事務所屋上で行ないました。夕方7時、西北の山に日が沈み、夕焼けを見ながら、ビールを飲み、花火の開始を待ちました。夜空にドローンによるディスプレイ映画の場面が次々と描かれ、花火が重なりました。昨年と比べ、より細かくなり、鮮やかなドローンでした。3組の家族連れ、計19人の参加がありました。用意の飲み物や食べ物、持ち込んだものをつまみながら、家族や仕事の話が出されました。

静岡に10年暮らし初めて安倍川花火を見た人、長野県から帰省した息子たちと来た人、疲れて花火開始まで寝ていた人など、どの参加者も楽しそうでした。4階建の屋上から見下ろし、「殿様気分だ。気持ちがいらない？」と声があがりました。来年は、参加者を増やし、もっともっと組合員同士でワイワイと、話ができる「夏の交流会」にしたいと地区労連役員から話がありました。